

KINKON

2022春夏
vol.17



ZERO
CO₂
2050™



北越コーポレーション

KINKONは、当社工場の地名の頭文字を組み合わせ、お客様を訪問する際のチャイム音「キンコン」をイメージした、当社の環境活動通信誌です。

サプライチェーン排出量って何？

サプライチェーン排出量とはものづくりの中で発生する温室効果ガスの排出量のことです。紙の生産においては木の育成から紙の製造、販売後に使用・廃棄されるまでの流れのことを指します。

この排出量は、

- **Scope1** 製造に関する直接排出
- **Scope2** 購入した電気、蒸気等の間接排出
- **Scope3** Scope1、2以外の間接排出

※Scope = 範囲、領域

の3つから成ります。

北越コーポレーションは、環境省がサプライチェーン排出量の企業事例掲載を始めた2013年から毎年継続してデータを掲載している10社のうちの一社で、製造業(紙・パルプ)部門では唯一です。

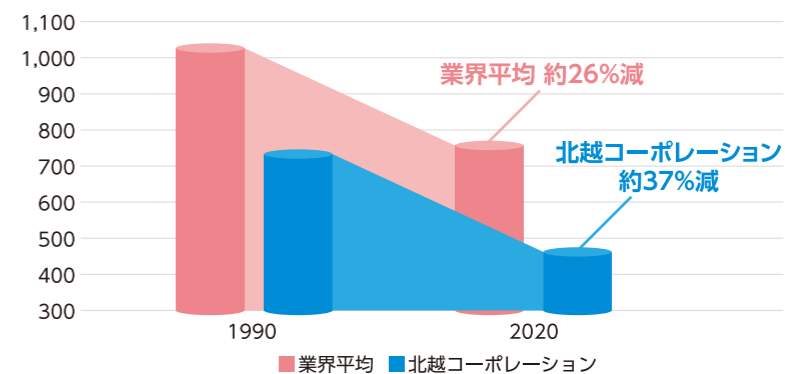
あらゆる環境負荷を最小限にする「ミニマムインパクト」の観点から、過去25年間にわたって約500億円の投資を行い、Scope1、2の削減に取り組んできました。近年ではエコシップの就航やエコレールへのモーダルシフトの活動を通じて輸送にかかる排出量(Scope3)削減にも力を入れています。

Scope3は
15のカテゴリに分類されます。

※当社と関わりの深いカテゴリを太字で表示しています。

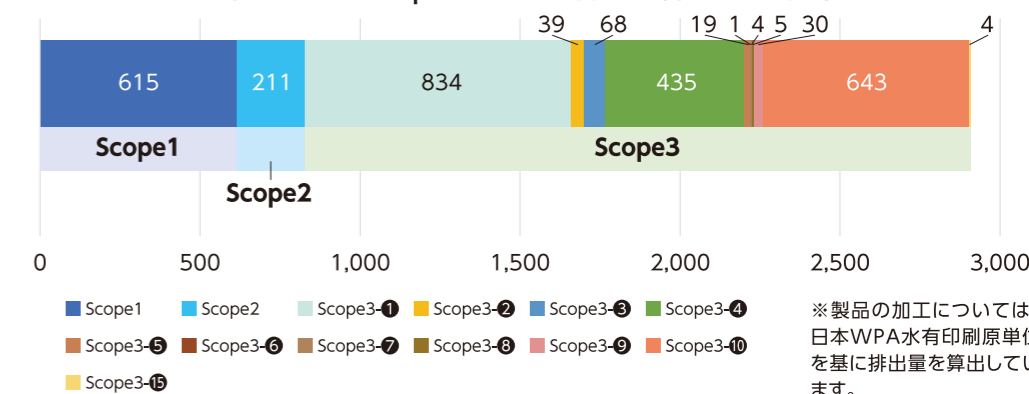
- | | |
|-----------------------------------|-------------|
| ① 原材料 | ⑨ 輸送・配送(下流) |
| ② 資本財 | ⑩ 製品の加工 |
| ③ Scope1、2に含まれない燃料
及びエネルギー関連活動 | ⑪ 製品の使用 |
| ④ 輸送・配送(上流) | ⑫ 製品の廃棄 |
| ⑤ 廃棄物 | ⑬ リース資産(下流) |
| ⑥ 出張 | ⑭ フランチャイズ |
| ⑦ 通勤 | ⑮ 投資 |
| ⑧ リース資産(上流) | |

CO₂排出量原単位 (kg-CO₂/製品)



北越コーポレーションはCO₂排出量原単位の削減に積極的取り組み、1990年から2020年にかけて業界平均26%削減に対し37%の削減を達成しました。

北越グループScope1、2、3 CO₂排出量 (千t、2020年度)



※製品の加工については、日本WPA水有印刷原単位を基に排出量を算出しています。

北越コーポレーションのサプライチェーン

原材料の調達

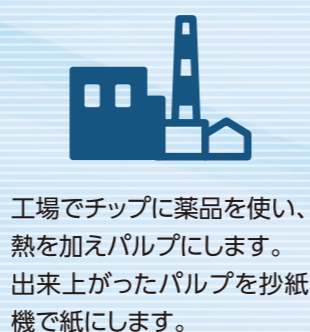
Scope 3 <上流>



紙の製造

Scope 1
燃料の燃焼

Scope 2
電気の使用



製品の販売

Scope 3 <下流>



船の大型化・低燃費化によるCO₂排出量削減

当社は、チップ専用運搬船を所有し自社で使用するチップを海上輸送しています。輸送におけるCO₂排出量の削減のため、チップ船の船型大型化による輸送効率の改善や、最新鋭の低燃費船(同型船比15%減)の導入による輸送エネルギーの削減を進めてきました。現時点、全船が最大船型に移行完了し、最新鋭の低燃費船比率は40%を超えています。今後も原料調達におけるCO₂排出量削減に取り組んでいきます。



モーダルシフトでCO₂排出量10%未満へ

トラック輸送から鉄道輸送に切り替えるモーダルシフトの一環として、昨年から新潟-熊谷間、新潟-名古屋間で当社所有のコンテナを利用した製品輸送を開始しました。製品納入後のコンテナ回送時には、原料となる段ボール古紙を帰り荷として輸送しています。モーダルシフトを進めることで、CO₂排出量は同じ量の荷物を運ぶ場合で約10%未満になると言われています。今後は物流における2024年の働き方改革関連法案適用によるドライバー不足なども見据えながら、更なるコンテナ輸送比率を向上させることで、地球温暖化の原因となるCO₂排出量の削減を進めて参ります。



紙製マドラーが発売20年目を迎えました

当社が原紙を供給している紙製マドラーについてご紹介します。マドラーといえば、金属製かプラスチック製が一般的ですが、2022年4月1日からプラスチック資源循環促進法が施行されたこともあり、紙製のマドラーがプラスチック代替品として注目を集めています。

当社とアオトプラス株式会社が紙製のマドラーに着手した歴史は古く、2003年に発売してから今年で20年目を迎えます。多層抄機で約1mmの厚さを確保し、湿潤強度を付与することで紙製ながら濡れにも強いマドラーとなっています。マドラー



紙製マドラー



紙スプーン

他にもスプーン、フォーク、トンブなどの各種紙製カトラリーも展開しています。

書類整理用のプラスチック製クリアファイルに代わるものとして、透明な紙を利用した紙製クリアファイルを作成しました。近年では企業での紙製クリアファイルへの転換事例も多くなっています。これを機に是非皆さんも紙製のカトラリーやファイルなどを使用してみてください。



紙製
クリア
ファイル

問合せ先 アオトプラス株式会社



「葛繊維紙」ご紹介

静岡県掛川市に古くから伝わる伝統工芸品に葛布(くずふ)という、葛の蔓から繊維を取り出して作られる織物があります。

織元の小崎葛布工芸より、掛川葛布を多くの方に知っていただき、かつ伝統工芸に関わる職人の生活を守り、新たな人材を育てる為の資金源として、原料に葛を使った印刷用紙の開発依頼をいただき、「葛繊維紙」が生まれました。

開発にあたっては、掛川市が音頭を取って地元企業やボランティア、当社が協議を重ねて地域官民一体となった取り組みとなりました。

葛繊維紙は長岡工場生産しており、官庁関係や企業、銀行に広く印刷物や名刺などで使用されています。

特殊紙生産に特化した長岡工場では、今後もSDGsに繋がる混抄紙の提案・開発に取り組んでまいります。



CNF素材「ReCell」が宇宙へ

超小型人工衛星を開発するテラスペース株式会社が、紙で人工衛星を制作するプロジェクトを進めており、当社もセルロースナノファイバー(CNF)素材ReCellを提供することで、このプロジェクトに参画します。「ReCell」とは、当社が開発したCNF素材で、紙を超えた強度、優れた成形性を兼ね備えた地球環境と宇宙環境の両方にやさしい素材です。私たちは紙で人工衛星を制作するという最終目標に向け、その第一歩として2023年に打ち上げ予定である初号機「TATARA-1」の外壁の一部にReCellを試用して実証試験を行います。



超小型人工衛星の初号機となる「TATARA-1」

編集後記

今回は、サプライチェーンの温室効果ガス排出量に焦点を当てて、各排出量の考え方や当社の排出量削減の取り組みについて紹介しました。

メーカーが製造に伴って排出しているScope1,2だけでなく、製造の上流側と下流側も含めたScope3についても注目が集まっています。当社は、排出量を可視化して、効率的にサプライチェーン全体を通じた温室効果ガス排出量の削減に取り組んでまいります。

当社の温室効果ガス排出量削減の取り組みについて分かりやすく紹介できればと思います。

この通信誌の用紙にはミューマット-F 157g/m²を使用しております。

KINKON vol.17

2022年6月発行

【発行】

北越コーポレーション株式会社

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-2

TEL(代):03-3245-4500 FAX:03-3245-4511

http://www.hokuetsucorp.com/

ZERO
CO₂
2050™

